

Finland after 1917

Helsinki 1991

seppo zetterbeng

THE WAR YEARS 1939 ~ 1940

150781125 石川 達郎

冬戦争



冬戦争の背景

1) 第2次世界大戦後に開戦

- i ソビエト連邦とフィンランドによる戦争
- ii ソ連のフィンランドへの侵攻

2) 第1次・第2次にわたり抗争

第1次: 冬戦争

第2次: 継続戦争

人物と戦争の開始

1) ルドルフ ホルスティ

 i 冬戦争時のフィンランド首相

2) ボリス ヤルツェフ

 i ソ連の諜報員 スターリンと繋がり

3) ヤルツェフがホルスティを訪問

 →戦争の元に



ヤルツェフの提案

1) ソ連側の要求

- i フィンランドのドイツ援助の禁止
- ii ドイツの撃退
- iii ソ連の軍事援助の受諾

2) フィンランド側の反応

- i 要求を拒否
- ii 中立を維持

ソ連の動向

1) 勢力の確保

- i フィンランド・バルト三国・ポーランドへ圧力

2) 1939年3月

- ii フィンランドへ再度提案

 - フィンランドは拒否

北欧の動向

1) 北欧は現状の危機を察知

2) 10月18日

i ストックホルムへ各国首相を招集

3) スウェーデン

ii フィンランドへの軍事的支援不能と伝達

冬戦争開戦前

1) フィンランドの動向

- i カレリア地峡に十分な軍隊を配備
- ii ソ連の侵攻への対抗準備

2) ソ連の動向

- i フィンランドとの国境に軍隊を結集
- ii ソ連のフィンランド侵攻準備



冬戦争開始

1) ソ連は不可侵協定を破棄

→1939年11月30日

i フィンランド国境1000kmに及び軍隊を配置

→多大な攻撃を開始

2) ソ連の計画

i フィンランドを2週間で侵略

460.000人 戦車2000機 航空機1000機用意

ソ連の侵略計画

1) フィンランド東側全面からの侵略

- i フィンランドは33.000人の精鋭部隊を用意

 - ソ連の侵略計画に対応するには不足

2) フィンランド側

- i 対空設備、弾薬、対戦車用武器の不足

- ii 空軍の航空機100機の予定

 - 約40機のみ用意 →過半数が戦争終了後に到着

侵攻開始

カレリアン地峡

1) タイパレ (taipale)

i 12月中旬突破を検討

→失敗

2) スマ (summa)

ii タイペイルと同時に戦闘を開始

→失敗



侵攻

1) カレリアン地峡北部

- i ロシア側がいくつかのポイントにて同時に攻撃

2) トルバジャヴィ

- i 12月10日～12日
- ii フィンランドは勝利
 - フィンランドは各地域にて士気が向上
 - Ilomantsi, Lieksa, Kuhmoにおいても陣地を確保



侵攻2

1) ソ連

- i Ouluに向かいフィンランドを分断する作戦を実行

2) フィンランド側の処置

- i ソ連に対し、包囲・孤立作戦を実行
- ソ連は作戦失敗
- 捕虜として確保



状況

1) 気温マイナス30°C

→深い雪のため進行が困難

2) フィンランド側の対応

→スキーの使用

3) ソ連側への環境による損害

→凍結による死亡の増加 「white death」



ソ連の新たな攻撃

1) 1940年

→カレリアン地峡侵攻への補強

→summaにも兵を補強

→viipuriにて攻撃を展開

2) 目的

→フィンランド軍地への進出

→作戦の成功



結論

フィンランドはソ連の侵攻に対し防衛を成功